

ちかひ



浄土宗西山深草派宗務所

総本山 誓願寺

謹賀新年



誓願寺門前図屏風 京都文化博物館蔵

平成23年 法然上人八百回大遠忌

◆ 元祖法然上人八百回大遠忌ミニポスターより ◆

◆ 目次 ◆

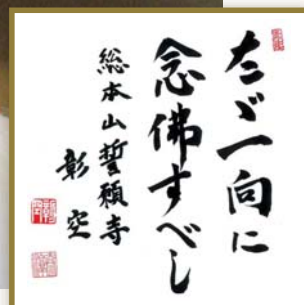
- 新春を迎えて
- 『誓願寺縁起』について
- お釈迦さまのご生涯 ③
- 元祖法然上人八百回大遠忌にむけて⑧
- インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ②④
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団” Vol.28
- 授法山 上行寺 不退院



新春を迎えて

浄土宗西山深草派管長
総本山誓願寺 法主

井ノ口 泰淳



新年 明けましておめでとう
ございます。皆様方、それぞれ
に御機嫌よう御越年の事と お
喜び申し上げます。

本年 平成二十三年は、元祖
法然上人八百回大遠忌に正当致
します。本派におきまして四
月二十一日より二十五日かけ
ての五日間 総本山誓願寺に於
きまして大遠忌法要が盛大に営
まれることとなっております。皆
様方におかれましては御参詣
いただきますようお願い申
上げます。

元祖法然上人は本年より八百
年前、建暦二年正月二十五日往
生されました。上人の御一生は
決して平穩なものではありません
でした。

御年四十三才の砌、^{みぎり}「専修念
佛」の教えを説かれ、御年六十
六才の建久九年『選擇本願念佛
集』をお著しになり、専修念佛
の教えを大成されました。

「専修念佛」の教えを高くか
かげられてから後は、幾度か念
仏停止の迫害を受けられ、最晩
年には讃岐の国への流罪に処せ
られました。

京都への帰参が許されたのは、
御入滅の前年（建暦元年十一月）
でした。お亡くなりになる直前に
お示しになった『一枚起請文』に
はその最後の文として「ただ一向
に念佛すべし」とお示しになって
ゐます。上人の歿後にも、嘉禄の
法難と称される迫害が起り、専修
念佛の僧徒ははげしく弾圧されま
した。

この様な苦難の道を通り抜け、
専修念佛の教えは八百年の後世に
も栄えて居ります。

大法会を営なむことは、元祖上
人の教えを今後永く伝え栄えしむ
ることであることをよくよく肝に
銘じなくてはなりません。

「ただ一向に念佛すべし」のご
法語を心に決めて、専修念佛の教
えをお守り下さるよう衷心意願し
て居ります。

平成二十三年 新春
総本山誓願寺 第二百二世

彰空泰淳 識

※井ノ口法主御染筆の色紙を抽選で
1名の方に差し上げます。詳しくは
7ページをご覧ください。

『誓願寺縁起』について 小島 英裕

平成十六年(二〇〇四)彼岸号から始めた連載も全二十回の前号で終了しました。

誓願寺は古来より、人々が気軽に参りできる町の中心に建立され、庶民の念仏道場として親しまれてきました。『誓願寺縁起』には、本尊阿弥陀さまの出現と創建の由来や、阿弥陀さまと結縁された人々の信仰の物語が記されており、『誓願寺縁起』が紐解かれ、お念仏の教えが広められました。誓願寺は町の中心であるが故に、度重なる火災に見舞われ、再建を余儀なくされましたが、その都度『誓願寺縁起』が勧進帳と共に制作され、信仰の物語を語りながら全国に寄付が呼びかけられました。

『誓願寺縁起』は掛軸、絵巻物、冊子本、卷子本など数多くの種類が残されていますが、現存する最古のものは鎌倉時代に制作された、絹本着色『誓願寺縁起絵』三幅です。法然上人が在世された時代にもっとも近い『誓願寺縁起』で、現在は国重要文化財として京都国立博

物館に寄託されています。もともとは二幅でしたが、一遍上人、真阿上人を描く一幅は海北友雪の筆と伝えられ、江戸時代に増補されました。

平成二十三年四月、誓願寺では元祖法然上人八百回大遠忌法要を厳修します。『誓願寺縁起』によると、誓願寺開山は慧隠法師(二論宗)で、誓願寺第二十一世の藏俊僧都(法相宗)が

法然上人に皈依され、第二十二世に法然上人が就任されたから誓願寺は浄土宗になったと言われている。このことから誓願寺は、法然上人二十五霊場(宝暦十三年(一七五二)法然上人五百五十回遠忌を契機に選定)の二十番札所になりました。

『誓願寺縁起』に記された信仰の物語は、現在を生きる

私達にとって、今なお分かり易いお念仏の教えであり、道しるべとなるものです。和泉式部が誓願寺で体験された、阿弥陀さまからの夢のお告げ、円能さんの仮死状態の中での誓願寺六地藏さまのお導きなどを通して、檀信徒皆さまの信仰がさらに深まっていくことを願っています。法然上人八百回大遠忌法要が勤まる誓願寺に、是非ご参詣ください。



▶ 誓願寺縁起絵巻



元祖法然上人八百回
大遠忌にむけて⑧

生き生きと法然桜 八百年
南無阿弥陀 八百年の 桜哉

今年平成二十三年は、私たちに生きる喜びのお念仏をお示し下さった、元祖法然さまの八百回忌に当たります。

私の寺では、七百回忌を大正元年にお勤めしたとの記録がありますが、この百年間を振り返り、大正、昭和、平成の激動の時代に、私たちの先輩や、現に私たちが、本当の意味に於ける念仏者であったか、あるか、大いに自覚反省し、次の百年に向かって、伝え残すものが何であるか、改めて振り返り起こさなければならぬと思うのであります。

さて法然さまがこの二十世紀、物質科学文明に汚染され、精

神の安定を失った、不安な現在に御在世ならば、何と仰り、どう行動される事でありましょうか。八百年前の法然さまの時代と、更に遡って遠くお釈迦さまの時代と現在、そこには本質的に、人類が生存する限り、何ら変わる事のない「生老病死」四苦が存在します。誰も逃れる事の出来ない根源的な苦しみがあるのであります。

この解決の為、幾多のお祖師さまがたの御努力があつたのであります。が、今ここに法然さまが初めて、「阿弥陀さまの本願」苦しむ私たちが救われるのは、救わねばならないと云う阿弥陀さまの「お誓い」によるのであると自覚された、いわゆる「真他力」にお目覚めになったのであります。限りある私たちの生命が永遠の生命にさせて頂けるのであります。

伝えようお念仏のDNAを！

この次は九百回忌永遠の春

(布教師会)

◆表紙の解説◆

衣食住の三は 念仏の助業なり

み仏の前で、幼い少女が小さい手を合わせてお念仏をお称えしている健気な姿に、また老婆が風雪に耐えたその手を合わせ、お念仏をお称えしている低い声に、私たちは感動を覚えます。阿弥陀さまを信じ、全てをお任せしている正に真他力のこころをそこに見るからです。

衣食住が充たされ、生活が安定して、はじめて信仰に入っていくことが出来ると考えたり、また、毎日の生活に追われて、信仰など程遠いという人もあるでしょう。

法然上人は「衣、食、住の三つは念仏の助けになります」と、先ずはお念仏を申しなさい、念仏を申す為に生きなさい、と言われました。私たちは自然に育まれた多くの命を預いて生かされています。有難い、申し訳ない、共に助け合っ、という感謝と懺悔と報恩の謙虚なこころのこもったお念仏をお称えしていきましよう。

元 祖 法 然 上 人 800回 大 遠 忌 法 要

平成23年4月21日(木)～25日(月) 於 総本山誓願寺

法然上人の御遺徳を偲び、総本山誓願寺に於きまして、50年に1度の大遠忌法要を5日間になたて厳修致します。



老人・病人・死人を見てショックを受ける悉達太子

お釈迦さまのご生涯 3

文・釈尊法話会 絵・豆田 織奈

成長 四門出遊 (前編)



幼い頃の悉達太子は何不自由のない生活を送っていました。庭のそこかしこに色とりどりの蓮の花が植えられ、上質の梅檀の香だけが常に太子のために焚かれ、白い傘が強い日差しや雨から太子を守る為に使われていました。やがて、王族としての教養を習うと、聡明な悉達太子は才能を発揮されました。ある日、農夫が畑を耕すのを眺めている時、小鳥が掘り返された土の中の虫をエサとして啄み、その鳥を今度ほもつと大きな鳥が鋭い爪で襲うのを目にして、弱肉強食の凄まじいこの世の現実の姿を見て、心を痛められたと言います。

成人された悉達太子は、生まれて初めて城の外に出ました。東の城門を出

ると、「あれは何だ?」とお尋ねになり、「老人でございます。人間は必ず年老いてあのような姿になります」とお付きの者は答えました。太子は初めて老人を見たのです。「私も年をとれば、あのような姿になるのか…」と呟かれショックを受けて、城にお帰りになられました。

またある時、南の城門を出ると、「あれは何だ?」とお尋ねになり、「病人でございます。人間は病にかかるとあのような苦しみを味わいます」とお付きの者は答えました。太子は初めて病人を見たのです。「私も病にかかれば、あのような姿になるのか…」と呟かれショックを受けて、城にお帰りになりました。

またある時、西の城門を出ると、「あれは何だ?」とお尋ねになり、「死人の葬列でございます。人間は必ず死んで動かなくなります」とお付きの者は答えました。太子は初めて死人を見たのです。「私も死んでしまうのか…」と呟かれショックを受けて、城にお帰りになりました。

(つづく)



さりげなく親切な車掌さん

二人でジャンシー駅のレストルームのベンチで休んでいると、隣の空いた席に品の良い老夫婦が腰掛け、主人がおもむろに僕たちに話しかけてきた。僕がこれまでの行程と、これからの予定がまだ決めていない部分もある事を説明した。老夫婦はカジユラホーで宝石や装飾品の店を営営していて、ホテル・マーブルパレスの社長をよく知っていると言うのだ。そして社長のティワリさんの特長ある話し方をまねてみせ、僕たちを笑わせた。もし行き先が決まっていなければ、北部のナイニタールに是非行くように勧めてくれた。そこは、いくつかの湖がある高地で素晴らしい所だからと、メモ用紙に行き方を詳しく書いてくれた。

長い時間待って、目的の列車がホームに入ってきたのは、既に日が暮れた頃だった。車両に乗り込むと駅員が僕たちの切符を見て、該当する席を教えてくれた。

列車に乗り終え一安心し、ジャンシー駅を離れて暫くすると、係員が夕食の注文を聞きに回ってきた。夕食のことなど全然考えていなかった。丁度良いタイミングで来てくれたと思った。とは言っても日本の駅弁を想像して期待するのは大きな誤りで、スナック程度の、フライドチキンとサラダくらいの物しかない様だったが、何も食べない訳にもいかず、それらを注文した。一九八九年にも夜行列車には何度か乗ったのだが、チャイ売りやピーナツ売り、スナック菓子売りなどは、頻繁に通路を往来していたが、食事の注文に出くわしたのは、これが初めてである。時がたてばやり方も新しくなるものである。

今回初めての列車での移動だったので、寝袋に入ってもなかなか寝付くことが出来ず、壁に付いている薄暗い電球を灯し、『地球の歩き方』を読んで眠気を誘うよう努力した。ブサワールに着く十五分ぐらい

前に、車掌が起こしに来てくれた。前夜、車掌に到着時間を尋ね、目覚まし時計もセットしておいたのだが、こちらが頼んだ訳でもないのに、ちゃんと覚えていて、さり気なく起こしに来てくれる、こんな親切な車掌に、本当はチップをあげる価値があると思ったのだが、何せ寝ぼけ眼の上に、ミノムシみたいに寝袋に潜り込んでいて、すぐには手も足も出せない状態で、財布からサツとお金も出ないので、お礼を言うのが精一杯だったのである。



—— アジャンタの石窟寺院を背景に ——

総本山誓願寺だより

法然上人800回大遠忌

特別展覧会 法然生涯と美術

平安時代の末期に、人々の救済のために念仏信仰を唱え、浄土宗の宗祖となり、私たちの浄土宗西山深草派の元祖となった法然上人(1133-1212)。

本展は、平成23年がその法然上人の往生から、ちょうど800回忌になるのを機に開催します。

法然上人の伝記の集大成ともいえる、国宝「法然上人絵伝48巻」を中心に、寺院に伝わる国宝・重要文化財をはじめとした名宝の数々など、ゆかりの品をほぼ一堂に紹介する史上初の大回顧展です。

これらの資料を通して法然上人の生涯、人物像、思想と行動、さらに同時代の人々との関係をひもとき、人間・法然を浮かび上がらせます。

前売割引券等の発行もあります。詳しくは、次回平成23年3月発行の『ちかい彼岸号』をご覧ください。

◆会 期…平成23年3月26日(土)～5月8日(日)

◆会 場…京都国立博物館

◆休 館 日…月曜日

◆会場時間…午前9時30分～午後6時
(金曜日は午後8時まで)

◆入 場 料…一般当日、四〇〇円(前売り、二、一〇〇円)

お問い合わせ

京都国立博物館 電話 〇七五五二五二四七三
展覧会公式サイト <http://honen800.exh.jp/>

までお願い致します。



おもな行事予定

一月

●十五日(土)

六阿弥陀功德日

●二十四日(月)

法然上人追慕念仏行脚

二月

●三日(木)

節分会

●八日(火)

六阿弥陀功德日

三月

●十四日(月)

善導忌

六阿弥陀功德日

●十八日(金)～二十四日(木)

春彼岸

お詫びと訂正

前回発行のVol.129『お盆号』に誤りがありました。関係の寺院・檀信徒の皆さまに深くお詫び致します。

8ページ『何でもお寺探偵団 崇福寺』の文中、御住職の生年月日が昭和18年とありましたが正しくは昭和15年。萬福寺第37代とありましたが正しくは第38代です。

クイズコーナー

問題

総本山誓願寺は、法然上人二十五霊場の何番霊場(札所)でしょう？

数字2ケタでお答え下さい。

〇〇番

官製はがきに、答えと郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。今回は管長親下御染筆の色紙を一名、不退院さまより住職が描いた絵の写真を三名、本山謹製線香を五名の方に、合計九名の方に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒444-3523

岡崎市藤川町字中町南十五番地

稱名寺内 ちかい編集係

締切

一月二十日
(消印有効)

答え 〇〇
郵便番号
住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

ちかい 第130号

発行日 平成二十三年一月一日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新栄極楽之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二一〇九五八
FAX (〇七五) 二二一〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp

何でもお寺探偵団 不退院

Vol. 28



今回は、西尾市の授法山 上衍寺 不退院を訪れました。

プロフィール紹介

名倉 弘雄 師(不退院 第27世) 生年月日 昭和20年5月21日生れ(65歳)

昭和20年5月、西尾市上道目記町不退院に生れる。昭和43年愛知教育大学を卒業、38年間美術教師として主に中学校に奉職。平成11年より不退院27世となる。日本画家としても活躍中。

Q1

お寺の由来を教えてください。

応永8年(1401年)に悦山暢喜上人を開山として、徳永城主・徳永小七郎義雄が一宇を草創したのが始まりです。悦山上人は応永初期に当国遊化の折、法蔵寺開山龍芸上人の化導を受け弟子となった高僧です。応永18年(1411年)4月23日に義雄は入没し、当寺に葬られました。

永禄10年(1567年)9月29日に入没した八ツ面城主荒川義広、及び文禄2年(1593年)5月2日に入没したその妻・市場姫(徳川家康の異母妹)の墓も当寺にあります。

当山7世頓翁意傳上人の代、慶長7年(1602年)には徳川家康公より寺領13石5斗の寄進を受け、御朱印寺として寺紋に三つ葉葵の紋を授かりました。

Q2

お寺の宝物は何ですか？

元龜3年(1572年)、当山6世本翁意伯上人が正親町天皇の勅願によって宮中に参内して曼荼羅を講演し、正親町天皇より賜った『上衍寺』の勅額の軸です。

Q3

座右の銘など教えてください。

常に「仏教心」を忘れずにいます。美術教師として子ども達の教育に携わっていた時も、日本画家として活動している時も、住職としてお寺の法務をしている時も、常に「仏教心」が私の根底にあります。以前は仏像の絵を描いており、現在は能楽を主に描いております。能楽も仏教から出た芸術であり、その世界を描くことによって、世の中に仏教の素晴らしさを発信したいと日々活動しております。

Q4

「ちかい」読者に一言お願いします。

悲しい事件を耳にする時代になりました。仏さまに手を合わせ、感謝をする心が薄れてきたと思います。子ども、孫、ひ孫の代までも、「仏教心」を伝えて頂きたいと思います。

Q5

「ちかい」読者に何かいただけませんか？

私が描きました能楽の絵の写真を3名様に差し上げます。



◀『上衍寺』勅額の軸



◀住職直筆『華』



◀山門



◀本堂



◀鐘楼

【交通】

名鉄西尾線の西尾駅から幡豆郡一色町方面へ約4キロ。福地駅から徒歩で約20分。

【主な行事】

●旧暦3月21日 弘法会
●8月11日 盆施餓鬼

【お問い合わせ】

不退院 〒445-0882
愛知県西尾市上道目記町
中屋敷11番地
TEL 0563-56-5070